

二宮翁の他説

今和の年第五回 6/12 (水) 論評

人の巻 (報徳の仕法)

第八篇 国家盛衰の根元

一七八 p.238 衰亡は利権の争奪から

。富者、貧者ともども義をなされて、利を争うこと。

。この世間一般の悪弊を除くのが、符の教である。

一七九 p.239 直の利益は利の少いところ

一八〇 p.239 藩政改革は民政改革から

。ある藩の重臣が賊政の方針を導いたのは、即ち、その根元の

悪弊を大身にすまうこと。

一八一 p.240 悪民を長けし良民を育てる

。悪賢い悪人があるものを正し、善を退けて、

良民を養育すること、を務とする。国家治める道

一八二 p.243 功成り退くのは仁者である

。天の道は功成り名遂げて身を退く

人の道は、知者とは異なる。仁者といふは

一八三 p.243 仁者といふは

。功の成るは、むやみに、徳約は多くせざるの如きこと。

。仁者事に備はるべきである。

。春約第八(108) 島の八柄は、その非のうちに、この如

い、仁者といふは、徳約は多くせざるの如きこと。孔子の言、仁者

一八四 p.244 強欲の精曲表

。農業者は精を出すくらいつに、人のため、郷里のため

をいかにいかに賢くあるのに、惜しむことである。

一八五 p.245 多く積みおろく散らす大原則

。天下を富有にする大原則である。

一八六 p.245 一家の経済と天下の経済

。国家経済の格言。いろいろのもの

「國不以利為利、以義為利也。」

大業 (p.128)

一八七 p.246 家康の遺訓と報徳仕法

の御遺訓御家蔵入百ヶ条の第十五条

報徳仕法にこそ、東照神君の思召と同じく

孝、忠、仁、義である。

一八八 p.247 民間作樂はまず先回村あり

。民間のたれ歌は、政治行政の本意にかかっている。

一八九 p.249 民心の退廃も人に減も失政あり

。政治の要は「食と足す」ことにある。

。所産民食喪祭。(堯曰第二十 p.209)

一九〇 p.250 賄賂の悪弊 一節はちりほひも多取なかり

一九一 p.251 中村兵左衛門をささす

。先祖の徳徳の家格と格式による、徳をたつようになす

人にも敬わさるる

。太平の時に乱世のような論を吐す必要のある

。富家の主人は、砥石に出会って研ぎ磨くことが必要

である

一九二 p.255 天智天皇の御製

。百人一首、後三書(享延書)の巻終りのせん

天智天皇の御製を味う。

秋の田のかりほの庵のこまをあらみ

わかれ衣子は露にぬれつつ

一九三 p.256 古事記の中心諷 — 中略の合 — 大東

一九四 p.257 人物の身分職業のちがわらな

。述而第七 子温而属威而不猛。若何每

子張第十九 子曰。君子有三变。望之儼如

即之也温。听其言也属。

一九五 p.257 遠くをゆく者は富む

。富む者は富む形になる者の差

味無名威 — 福聚の海 (観音經)

一九六 p.258

冥之神、疫痛神の経

掃除をせむに不潔なところの冥之池、疫痛神は

穢れむら

穢れは巡回して認識したものをあ